

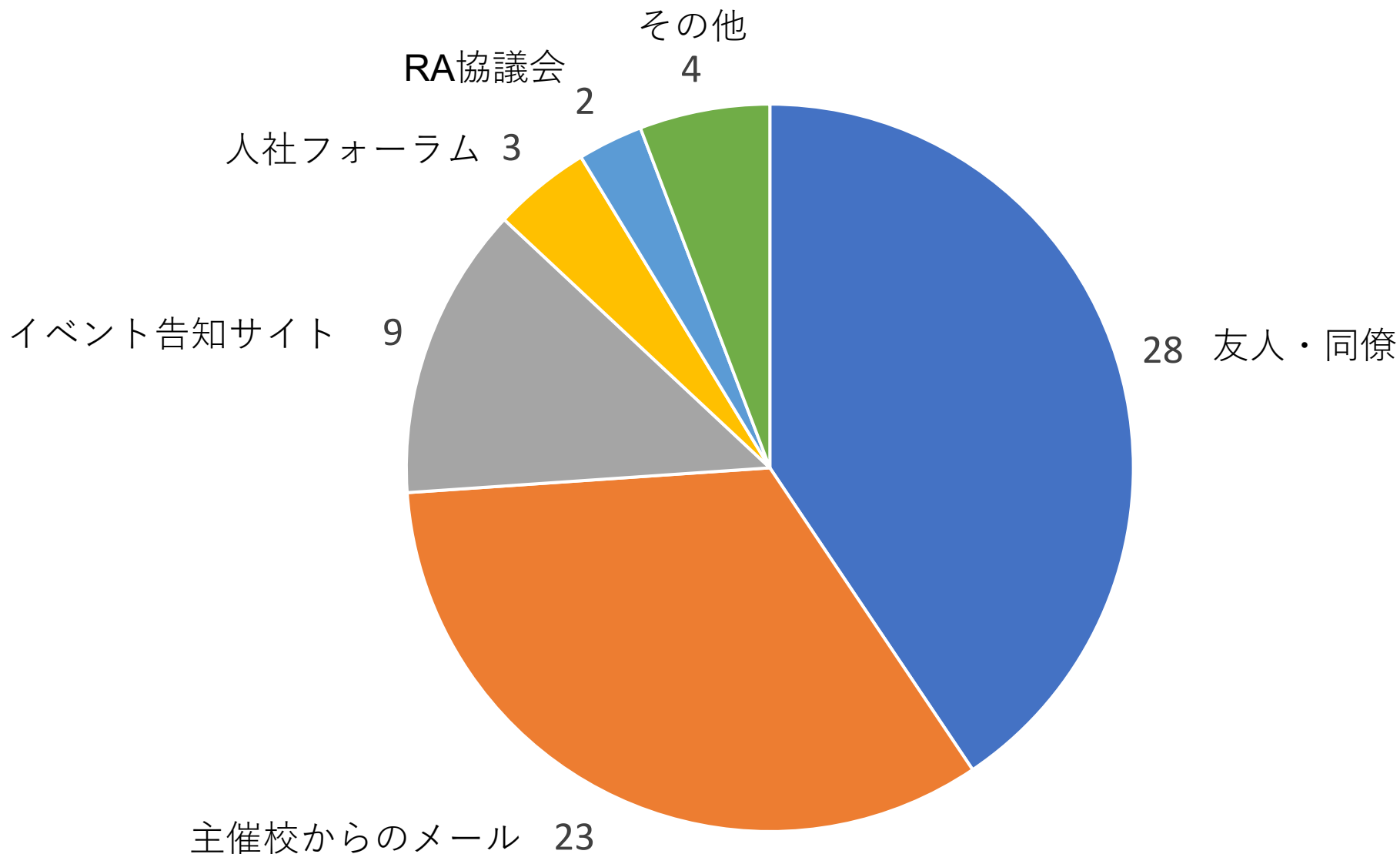
第8回人文・社会科学系研究推進フォーラム  
「ELSI（倫理的・法的・社会的課題）に取り組むURAの在り方」

# 参加者アンケートまとめ

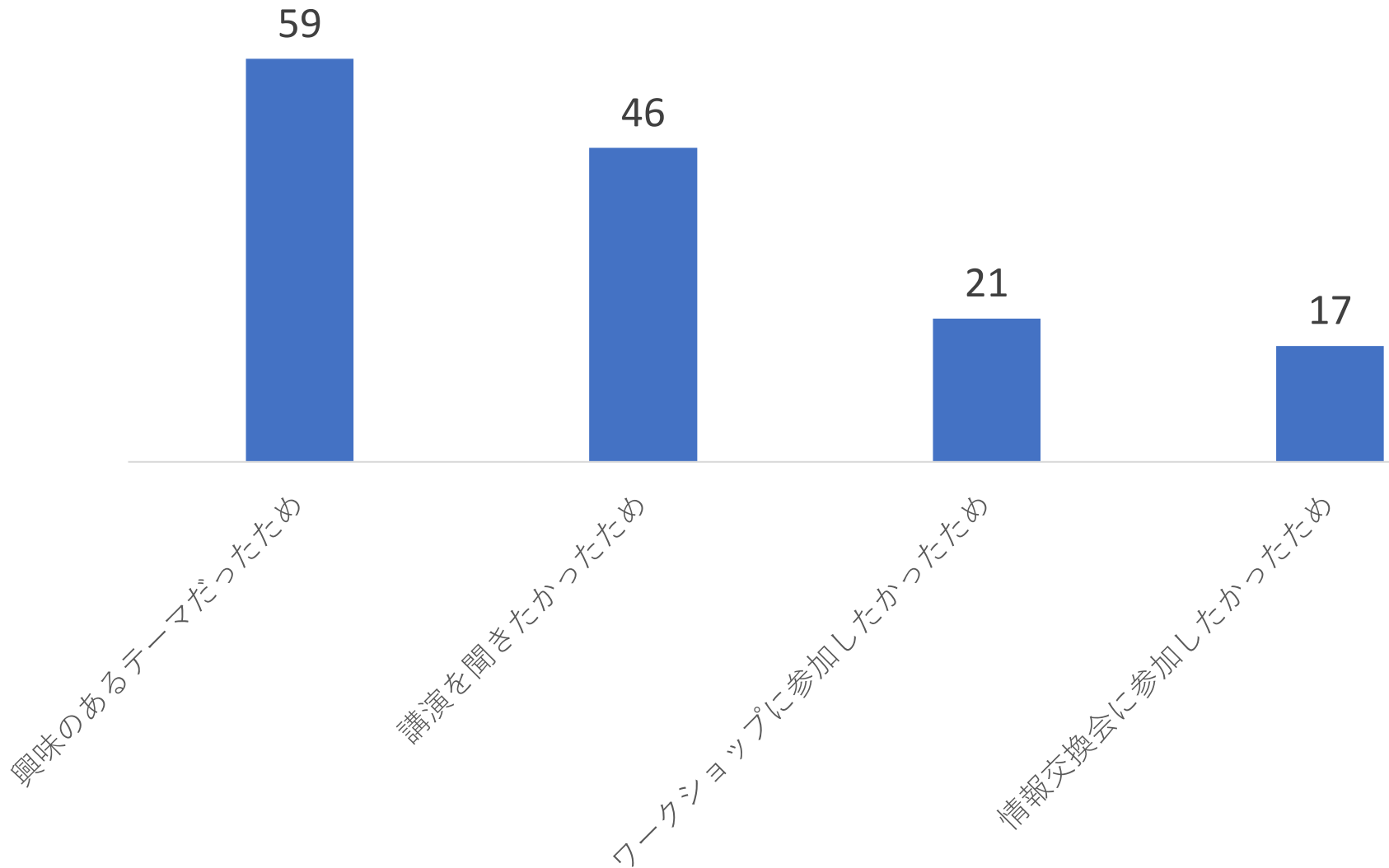
回答受付期間：3月17日 (金) - 31日 (金)

有効回答数：69

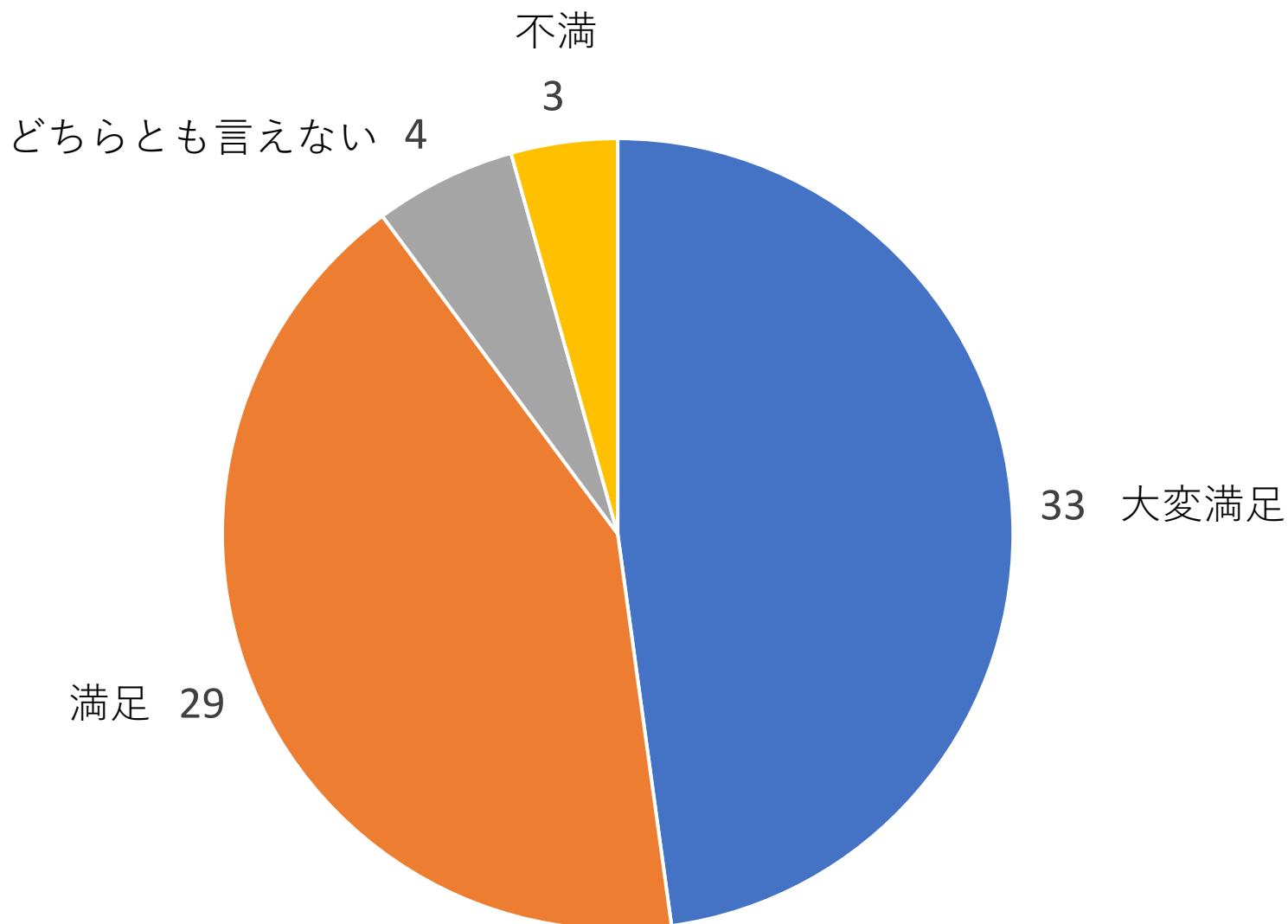
# Q1 このフォーラムについて、どこで知りましたか？



## Q2 フォーラムへの参加理由は何ですか？ (複数回答可)



### Q3 フォーラム全体への満足度はいかがですか？



# Q4 Q3（フォーラム全体への満足度）の理由を教えてください。<自由記述>

## 「大変満足」と回答された方の理由

- WSは久しぶりだったので楽しかった
- 各大学等の取り組み、具体的研究内容など、多くの情報を得ることができたため。
- 最近のホットなトピックという認識のテーマについて、いろいろな立場の専門家の講演を聞くことができた点。久しぶりの対面のセッションで直接のやり取りができたこと
- ELSI課題に関して、外観できるようなプログラムになっていたため
- オンラインだったので1日目しか参加ができませんでしたが、講演の構成がとてもよくて包括的に学ぶことができました。
- 音声等非常にクリアで聞きやすかったため
- 講演の内容が非常にリッチで、またワークショップによりその情報をうまく整理できたためです。得られた情報を所属機関のURA内で展開したところ活発な議論に至ったほど、有益な情報であったと感じています。
- 事例紹介、特に奥原さんのご紹介が良かったです。また、阪大のELSIセンターの領域動向調査は素晴らしいと思いました。
- 対面で参加でき、また内容が充実していたため。

- ELSIへの関わり方が、大学によって、それぞれが置かれた立場によって、様々であることを、改めて実感できた。
- 興味のあるテーマについて、対面で有意義なディスカッションが出来たため。
- 現地参加が満員だったのでオンライン参加となり、ワークショップと情報交換会に出られず残念です。
- 交流を通し色々な意見を聞くことができた
- 新たな時代に必要な研究領域を幅広く勉強することができました。有難うございました。
- 総論から少し専門的なお話まで聞くことが出来、それを踏まえたワークショップが出来たこと。
- 対面でざっくばらんに人と話せたことに大変満足しました。
- 対面で参加することで、真剣に勉強するだけでなく、人脈形成にもつながりました。

## 「満足」と回答された方の理由

- いろいろな取組みを知ることができたので
- オンライン参加だったが、会場の様子もわかり、実際に参加しているようだった。
- ご講演はどれも興味深く、勉強になりました。他大学の方と交流できたのも有意義でした。
- 全日程に参加したかったが、初日のみだったなので。初日の講演会はよかったです。

- 知らない話が聞けて興味深かった
- 倫理的問題の明確化
- 今年の4月より異動した先で、業務としてELSI/RRIについて考える機会が増え、ぜひ現状学びたいと思っていたため、本フォーラムは大変勉強になりました。
- ELSI/RRIに関する政策動向について知ることができた
- 画面共有の解像度については少し残念でした（シンプルに共有画面の部分がもう少し大きいとよかったかもしれません）が、また時間があるときに公開資料を確認するようにします。
- 他大学のURAにおけるELSIの取組みを学べたため
- 対面では会場の雰囲気体が感できるとともに参加者間の情報交換が容易
- すべてのスピーカーのお話は大変勉強になりました。オンライン参加だったので、スライドの解像度がもう少し高ければよかったのですが。
- URAへの期待に関して、参考になるご意見を伺うことができたため。
- オンラインでは、通信容量のせいか、資料の文字がにじんで、かなり見づらかったです（読めないところも）。後日、ホームページにアップとのことでしたが、それもこのアンケートのようにお知らせくださると有難いです。個人的に、むかし東広島キャンパスで働いていたので、なつかしく思いました。
- 講演スライドを当日手元で見て、メモなどを取って聞きたかったが、オンラインでは後日との事で、（原文ママ）
- 講演者それぞれの立場でのELSIの話を伺うことができ、ELSIの幅広さを感じることができました。資料がぼやけてしまってほとんど読めなかったのは残念でした。
- 理解を深めることが出来た

## 「どちらとも言えない」と回答された方の理由

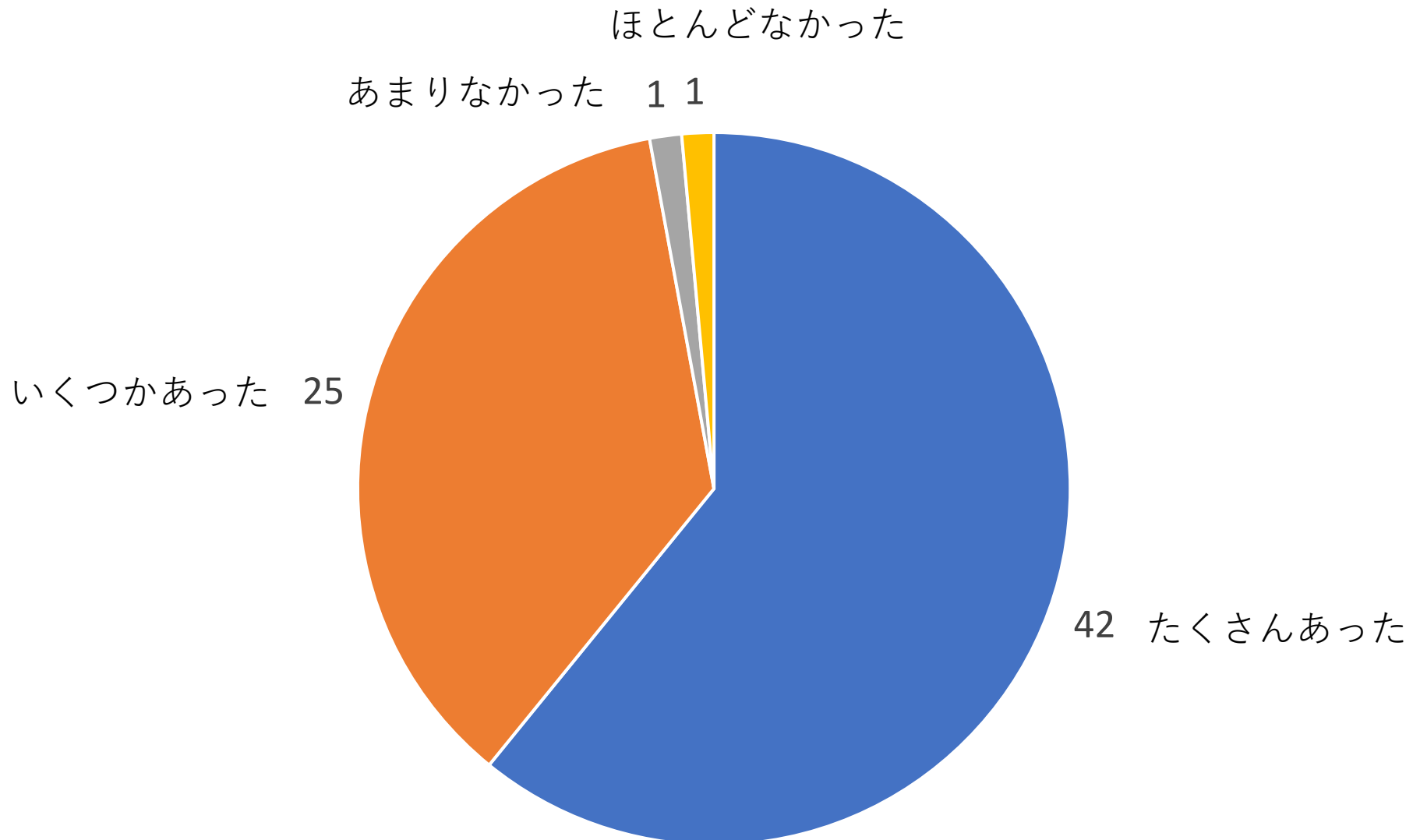
- オンラインで参加したが、スライドが非常に見にくかったため。
- 創設的な話が多く、URAや実務者に対して有用な知見というのは少なかった。  
講師も何となくURAについて話している印象

## 「不満」と回答された方の理由

- コメントにもあったように、オンラインでの画像が不鮮明にも関わらず改善が図られなかったことや、最初の阪大の先生のお話にあまり中身がなかったこと。
- こちらの通信状態の問題だったかもしれませんが、何度も接続が途絶えて、最後は切断されました。
- 映像が良くなかった。時間が短かった。



## Q5 フォーラムを通じて学ぶことができましたか？



## Q6 Q5で「たくさんあった」「いくつかあった」と答えた方は、具体的にどのようなことを学びましたか？ <自由記述>

### 「たくさんあった」と回答された方の理由

- いろいろなセンターの取り組みや、それぞれの組織がURAに求めていることなど。
- 小林傳司先生の総説、最後の小林信一先生の「あせらない」というお言葉、各演者の講演を聞きながらいろいろな課題に気が付くことができた。
- みなさんの悩みや取りある対応の共通性。関わる人がみな同じ意識を持っていたら、どこかの大学で実施したことは横断的に展開できそう。
- ワークショップでは、現場のURAとして、（ELSIに限らず）新しく取り組むべき課題が出てきたときに、どのように課題やToDoを抽出するかなどについて、グループ内でディスカッションすることで学ぶことができたこと。久しぶりの対面のセッションを通してネットワークを得られたこと。
- ELSIをめぐる日本の状況と欧米との対比
- ELSIとRRIとの違い、ELSIセンターでの活動（役割の紹介や、企業との共同研究の事例）、どの大学も何をどうしたらいいか困っていることが分ったことなど。
- 内容的には↑の回答と同様です。

- ELSIに関する歴史的な視点、ELSIとRRIの違いなど
- ELSIの取り扱いについて、各研究機関での検討状況などを知ることができた
- ELSIとRRIの違い、歴史的成立の経緯、裏側の哲学（原爆への反省）
- 同上
- ELSI,RRIについて理解することが出来た。それと同時に、他大学の状況についても知ることが出来た。
- 阪大、広大のELSIセンターの活動状況や発信している成果が参考になりました。市民対話の推進と運営は今後重要度が増すように感じました。
- Elsi自体の認知度が悪いことがわかった
- ELSIそれ自体ではなく、生まれる背景や生まれてからの社会情勢との関わりなど。
- 色々とありましたが、中でも小林信一先生の「あせらず」ということ、それからディシプリンベースを越えて研究者を俯瞰的に見ることによって、そうマッチングさせられるかがURAの仕事、といった部分です。
- 講演者だけでなく参加者間での会話の中で色々な取り組みを知ることができました。
- ワークショップで、非常に多くのことを学ぶことができました。
- ELSI・RRIの国際動向を押さえること
- ELSIの概念についてきちんと理解している人は少ないこと。
- 何を研究するか？ではなく、どうやって研究するか？についてこれほど多くの視点や課題があることをワークショップの議論の中から感得できたことは大きな収穫でした。

- ELSIがURAの方にもまだあまり知られていなかったこと。小林さんが「20年経つ」とおっしゃってましたが、これからという感じがしました。URAの方々の関係性が強いこと。
- ELSIの観点からみた現場の取り組み事例の紹介があったことで、ELSIへの理解を深めることができたと感じました。
- ELSIに関して、今後取り組むべき要点が理解できた。
- ELSI/RRRの歴史的な流れ、現在問題となっている点など
- 小林傳司先生の基調講演からELSIの歴史の概略と基本的な考え方を知ることができてたいへんよかった。奥原先生のお話のように具体的な社会実装を考えることができてたいへんよかった。広島大学にもELSIセンターの必要性を感じた。
- ELSI/RRRの具体的に多様な観点・論点を知ることができた。また従来の研究倫理やの関係を整理できた
- URAの期待される役割について。これまでの経過とこれからの展望も含め。
- 背景や歴史の概要から、様々な人の取り組み事例を聞くことができ、実際にやるときの大変さをどのように軽減していくかのヒントを得られました。

## 「いくつかあった」と回答された方の理由

- 組織構築の参考になった
- ELSIに関連したFemTechのお話。あまりELSIの観点から、FemTechやGender Innovationを考えたことがなかったのですが、確かにRRRの文脈でいくと納得。
- 例えば、日本でELSIと呼ぶものにはRRRも含まれていること。

- ELSI&RRIの立脚点の違いを確認できました。また情報技術と民主主義の関係について新しい視点を頂きました。
- ELSIの取り組みについて知る良い機会だった
- 問題抽出について
- ELSIとRRI概念の整理ができたことがありがたかったです。小林傳司先生のお話をもっとじっくり伺いたかったです。
- 日本国内におけるELSIの経緯など
- ELSIやRRIの日本における課題や海外の状況について
- ELSIとRRIの接続がもやっとしていたのですが、先生方のお話を伺ううちに、自分の中で整理できたような気がします。
- URAに対して期待されること
- 小林先生、小山田さんの話はR A協議会のセッションで伺っていたので、復習のような感じでしたが、事例紹介の報告はいずれもおもしろかったです。URAの業務は多岐にわたっている、というのをあらためて感じました。
- ELSIの概念はすでにold fashionであるということ
- 多くの人がELSIに関して同じような悩みを抱えていることが分かった

# Q7 今後、人文・社会科学系推進フォーラムで扱ってほしいトピックがありましたら、ご自由にお書きください。

## <自由記述>

- あらゆる分野の研究者が集まって、何かトピックを議論する共創の場の実践。
- ポジティブな意味でのELSI/RRR。倫理と聞くとどうしても規制という雰囲気になってしまう。
- 安定的な皇統の維持のために女系天皇を容認すべきかどうか。竹田恒泰先生の話が聞きたいです。
- 改めて評価についてやっても良い時期かと思います
- 広報・国際化
- 出版（論文・書籍）
- 人社系URAの価値について、人社系キャリアパスについて
- 人社系の研究成果の評価方法について
- 人文・社会科学系と理系との分野融合研究推進について
- 人文・社会科学系領域の研究推進上の課題、海外研究者との共同研究の高度化
- 人文社会科学系のマッチング、共同研究
- 総合知や分野融合、ELSIの話題はだいぶしたので、人社研究の最先端を並べてみるのは？でも日本だけで最先端というのは面白くないので、あえて海外のジャーナルに出したりしている人社系の研究者に話を聞いてみたい。日本の人社で言われるのはタコ壺化。あえてタコ壺化と逆の動きをしている研究者から色々話をきいてみたい。

- 大学および研究機関における多様な属性メンバー（研究者、教員、企画系職員、従来型事務職員、**URA**、学生）で、組織として力を大きくしていくための工夫／取り組み事例の紹介など
- 大学のジェンダー比率の偏り
- 大学経営をナビゲートする**URA**。**URA**第一世代が副理事や社会連携本部長などに就く例も出ており、プロデューサー／戦略参謀系**URA**のロールモデルを知りたい。

以上。